輝く星たちへ

ユッキー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
輝く星たちへ

【Ｎコード】
Ｎ１８４７Ｄ

【作者名】
ユッキー

【あらすじ】
不良グループに入れられたみなみ。自分に発言権はない同然。そんな中膨れ上がっていく恋という気持ち…

輝く星たちへ（前書き）

決して主人公の様にはならないでください。
いいことぁりませんよ…。

校則破っても

輝く星たちへ

夜になると空を見上げる。　　曇っていると
落ち込む。
星が見えると嬉しくなる。
そんな私の物語……

五年前、私は恋をした。
私は中学二年生。相手は三年生。

明らかにこわそうな集団のリーダーのような奴。

廊下を通ってると必ずたまっている。周りの人たちは恐くて近づかない。

私は違う。スカートだって短いし、髪は染めてるし、化粧してるし、不要物といわれるものもたくさん持ってきてる。
でも、スカートは膝が見えるくらいだし、髪だって水泳やってたって言えば納得されちゃうし、化粧なんて眉描いてマスカラ付けてるだけだし、不要物は携帯とか化粧ポーチとかだけなんだ！

だからあんま目立たないし、友達だって普通にいる。
そんなある日のこと。
私は友達の洋ちゃんと理科室に行くため、廊下を歩いていた。

「ねぇねぇちょっとぉ」
私は振り向いてしまった…

「ちょっと茶髪の子っ！こっちきてぇ」
私のことだっ！あの例の三年恐い集団が呼んでる！
行かなきゃ何されるかわかんない！！！！！
「洋ちゃんゴメン！先行ってて？」
「いいけど、気を付けてね？」

洋ちゃんを先に行かせ、例の集団のほうに目を向けた。
すると、こっちにこいと言った。
「なんですか？」
「俺たちとツルまない？」…？はっ？
「どぉゆぅこと…？」

「お前の意見は関係なく、俺たちのグループに入ったんだ！分かったか？」

「分かりたくありません」理解しちゃったけど、三年とツルむとかやだしっっ
「お名前は？」

「桜井みなみですけど…」
「みなみちゃん。俺ら敵に回したらどうなると思う～？」

…脅迫か！？えっ…どうしよう…ってか、これしかないし…

「はい、分かりました…」ツルむしか…ないよなぁ…
「さっすがみなみちゃん！じゃっ授業はサボって今日はこのままゲーセンいっちゃおー」
！？

「ちょっと待ってください！今から行くんですか？」
「うん」

「無理です。」
「みなみちぁぁぁぁん？」低い声で笑いながら言うから恐さ二倍…。

「行きます…」
「よしっ！みんな支度終わったら正門集合なっ」
まてよ…？
「ここにいる人たちだけでいくの？他の女子は？二年生いないの？」
「当たり前じゃん！この学校お前しか女子いい奴いないんだもん。」

そう言い残してクラスに戻っていった。
……ってか女子いないって…私…淋しくないか…？

「あっもう教室…」
スクールバックの中に筆箱とポーチと携帯と財布とタオル一枚入れて終わり。

学校側から指定されたバックはあるけど、格好悪いから持ってかない。
教科書とかノートは置勉してるし～。

正門に向かって歩きだした。
正門にはもう四人いた。この集団は前まで四人だった。今はあたしがいるから五人になるんだけど…

リーダー（一番恐れられている人）・瀧　龍太
・原口　涼・山本　潤　・望月　仁

瀧
「みなみおそいー。早く行くぞっ」
み
「うん。ごめんね…」
潤
「気にすんな～」
五人で（制服で）近くのゲームセンターに向かった。
…って、ここって！不良がたまる、通称　死神天国…。
私は一番後ろで（涼くんの後ろに隠れて）中にはいっていった……
……。

「よぉ。なんだ？新人ちゃんか？」
中にはいると学ランきてる人が龍太くんに向かっていった。
「あぁ。同じガッコの二年。みなみっつーんだ。」
「へぇー。俺、山口れんっつーんだ。よろしくなっ」私に向かって手を出してきた。
「あっ、ども。桜井みなみです。」
握手しちゃったし…「まぁゆっくりしてきなぁ～」
私たち五人は喫煙席に向かった。

輝く星たちへ

龍太くんたちから聞いた話によると、
各中学校と高等学校で荒れてる奴らが集まってるらしい。
ここは年中無休でやっている。言わば、不良達のコンビニといえるだろう。

それから私は約二ヵ月間彼らと一緒にいた。
友達はいなくなっていった。でも何とも思わなかった。彼らが守ってくれるから。彼らが仲間だから。

そして、二ヵ月たった今、ありえないことになっている。

「付き合って？」
言っているのは…龍太くん！！！

私はひそかに龍太くんのことが好きだった。でも誰にも言わず、ずっと隠していた……。

「全然いいよッ」

見事付き合うことに…。

もちろん三人にも言った。意外にも祝福してくれた。

あたしにとって、四人の存在はとても大きなものだった。
龍太のコト、好きなっちゃいけなかったんだ…。
そのまま『友達』としていれば、皆幸せだったのに……。

不良の溜り場（本来の名は空遊龍世界）にはほぼ毎日きていた。
風の噂できいたのだろう。枢原中の良祐が聞いてきた。
「みなみちゃんと龍太って付き合ってんの？」
私と龍太は目を合わせて
「「うん！」」
良祐はおめでとぅと言ってカウンターに行ってしまった。

この時はまだ皆祝福してくれると思ってた。
この幸せはずっとずっと続くんだって信じてた。

良祐に喋ったことを後悔することになったのはそれから三週間後の事だった…。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1847d/

輝く星たちへ

2010年10月20日17時40分発行